

耐震診断調査方法について

Q, A-1	耐震診断における現地調査において、天井裏、床下の調査は必要ですか？	原則として、天井裏、床下の調査は行って下さい。 ただし、仕上げ材の撤去、物品の移動等で、危険を伴う場合、または過大な労力が必要となる場合は調査を省略することもやむをえない。
Q, A-2	報告書の申込み者へ提出は、郵送でも良いですか？	報告書の内容を詳細に説明することが目的であり、持参して診断内容を説明した後に受領印をもらって下さい。

診断方法について

壁強さ

Q, B-1	土塗り壁で、天井までの施工となっている壁強さの扱いについて	耐震診断・改修マニュアルP30に「横架材間全てに良好に施工されていない場合は低減を考える必要がある。」と しています。 平成19年告示1100号において、土塗り壁の壁倍率は旧基準法では、0.5としていたが、厚5.5cm以上で1.0、厚7.5cm以上で1.5となっている。 施工不良の場合は旧基準法の内容に近づくと考えれば、50%程度に低減するのが良いと思われる。
Q, B-2	強度を有していないことが明らかな間仕切壁の扱いについて。	床の間の仕切壁、模様替え工事における簡易な間仕切壁、基礎を有しない壁等については、壁耐力が無いものとして扱ってください。 診断において、調査が困難で、壁仕様を特定出来ない場合は全て不明とした1.96kN/mの採用もやむをえない。 全て不明とした1.96kN/mは、仕上げが、きずり1.1+化粧合板1.0=2.1kN/m、間仕切壁で化粧合板1.0+化粧合板1.0=2.0kN/mを想定しており、仕様が特定出来て、これより小さい値と判断出来る場合は低減してください。
Q, B-3	品確法の準耐力壁（横架材間内法の80%以上）は扱えますか？	W E Eにおける石膏ボード張り(1.2kN/m)は、土台、桁まで施工しない準耐力壁仕様を示しており、厚9mm以上、釘ピッチ200mm以下、川の字打ちの場合です。 化粧合板厚(真壁1.0kN/m、大壁1.4kN/m)は、土台、桁まで施工しない準耐力壁仕様を示しており、厚5.5mm以上、釘ピッチ200mm以下、川の字打ちの場合です。 石膏ボード厚12mm以上を四周釘打ち150mm以下とする場合(大壁仕様)は2.1kN/mとなりますが、w e eでは準備されていないので、別途仕様50番で入力してください。
Q, B-4	換気扇開口がある場合は耐力壁と見なせますか？	数が多くないとすれば、150φ程度の開口は無いものとして扱えます。 換気扇の場合は、もう少し大きな開口が必要とされますが、30cm角以下で、枠周囲に所定の釘打ちを行えば、開口は無いものとして扱うことも考えられる。
Q, B-5	補強設計において、w e eで準備された壁強さ倍率以外の材料は使用できますか？	原則として壁強さの規定が無い材料は使用出来ませんが、壁倍率または、壁強さ倍率の認定を受けている材料は使用できます。 カタログ等で、壁強さ倍率の数値が表示されていない場合は、壁倍率×1.96kN/mとして入力してください。

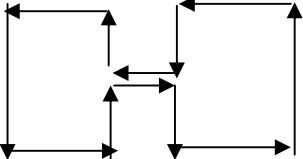
Q, B-6	外面に構造用合板とし、その上に窯業系サイディングを施工した場合に加算できますか？	柱に施工された構造用合板のみの壁強さ倍率となり、加算出来ません。 単独で使用する場合でも、窯業系サイディングは釘打ちを想定しており、金物により引っ掛ける仕様の場合は耐力壁とはなりません。
Q, B-7	ブロック腰壁上に施工された木造耐力壁の扱いについて。	診断においては、仕様を特定することが難しいので、全て不明の1.96kN/mとして扱うこともやむをえない。 改修において詳細な調査で、ブロック腰壁と確認出来た場合は当該壁の基礎は、その他基礎の扱いとする方法が望ましい。

エクセル報告書の入力方法

Q, C-1	総合判定計算書p5で、必要耐力 Q_r が0になる	短辺幅を入力して下さい。
Q, C-2	変形した間取りの短辺幅は？	雁行型の場合は、面積/長辺幅=平均的な短辺幅として下さい。この式でも明らかに6mを超える場合は、最大の短辺幅でも可 平屋建ては、割り増しが無いので、だいたいの短辺幅で可
Q, C-3	w e e の点数と総合判定計算書(p5)の数値が合わない	w e e では、2階床面積と1階床面積の比率を考慮出来ていないので、(総2階としている)エクセルシートp5で修正を加えています。平屋建てと、総2階は同じ値になると思います。
Q, C-4	劣化調査(P4)で劣化低減係数が###表示となる。	劣化度による低減係数(p4)で劣化部分が存在しない場合に###が表示されています。プログラム上のバグです。(p5)の劣化点数はw e e の値を転記しているので支障はありません。
Q, C-5	報告書の判定最小値に2階の値が表示される。	建物概要(P2)構造において、1階が非木造にチェックを入れた場合、またはチェックが入っていない場合に2階の値が表示されます。

w e e の入力方法

Q, D-1	壁配置において、壁を入力しようとしても固定点から放射状になるだけで壁を配置出来ない	外壁線が閉鎖出来ていない時に生じる現象です。外壁線を引き直して下さい。
Q, D-2	w e e で診断者情報を入力しても反映されない。	診断員登録ナンバーを入力して下さい。ファイルー診断者情報設定ー入力ー設定ーで反映されると思います。
Q, D-3	床仕様がⅠ、Ⅱ、Ⅲと混在する場合	w e e における一般診断の場合は最下位の仕様Ⅲを採用して下さい。
Q, D-4	柱、梁接合金物	診断において、柱、梁接合金物の確認は難しいので、Ⅳの採用になります。 補強時においては、補強内容に応じてⅠからⅣの採用となります。 構面の両側が通し柱Ⅲについては、採用に注意して下さい。平屋に通し柱は無い。現地調査では、通し柱か管柱か確認が難しい。

Q, D-5	筋かい端部接合金物	筋かいを配置する場合に診断において金物を確認することは難しいので、端部金物無しの値を採用することになります。56年以前の建物にBP1、BP2の採用は無いと考えられます。
Q, D-6	W E Eでの壁仕様入力について、外面-芯-外面となっており、内壁の入力が出来ないのでは？	外面とは、芯材の外面のことで、外壁の仕様、内壁の仕様をどちらに配置しても影響はありません。外面に土塗り壁、芯材に筋かい、他の外面にプラスターボード等を配置することが出来ます。
Q, D-7	土壁の配置について	土壁の配置で、w e eでは、外面、外面に配置出来るが、厚さが2重加算となるので、片側だけに配置して下さい。土台、桁間に良好の施工されている場合のみw e eで準備されている壁強さを使用出来るが、天井までの施工の場合は低減が必要です。
Q, D-8	2階部分が分かれている場合の診断はできますか？	2階が2棟の場合は中間部分に面積が発生しないように、同じ位置に外周線を引いてください。ただし、改修において、2階の値を正しく判断したい場合は、2階を別々に計算する必要があります。 
Q, D-9	W E Eの計算が出来ず、計算書が表示されない	ファイル名前を付けて保存を行ってから計算して下さい。